

避難行動・避難情報に関するイメージと報道記憶の関係

金井昌信¹・○石井美帆²・片田敏孝³

¹群馬大学大学院理工学府

²群馬大学大学院理工学府 環境創生理工学教育プログラム

³群馬大学大学院教授 広域首都圏防災研究センター

1. はじめに

自ら被災の経験から防災に関する知識を得ることは限界がある。そのため、多くの住民は広義の防災教育によって知識を得ることになる。その中でもテレビなどの災害報道は、防災意識のあり様に関わらず、防災に関する情報を得るための容易な手段であると考えられる。しかし、災害報道を通じて得られた情報を、住民が自らの命を守るための知識としてどのように認識しているのかは明らかとなっていない。

そこで本研究では、命を守るための知識として、避難行動と避難情報を取り上げ、それらに関する報道記憶が、避難行動および避難情報に対するどのようなイメージの形成に影響しているのかを明らかにする。

2. 調査概要

防災意識や避難行動・避難情報などに対する認識、災害報道の視聴程度を把握するためにインターネット調査を実施した。調査概要は、表-1 に示す通りである。

3. 避難行動・避難情報に対するイメージ

(1) 避難行動に対するイメージ

本調査では、『『災害からの避難』と聞いて、どのような行動を思い浮かべるか』を問い、表-2 に示す 12 項目を提示し、思い浮かべた行動を選択してもらった。また、この 12 項目の選択率について因子分析を行った。その結果より、第 1 因子を『安全な避難行動に対するイメージ』、第 2 因子を『危険な避難行動に対するイメージ』と解釈した。以下の分析では、この 2 因子の因子得点を避難行動に対するイメージの指標とする。

(2) 避難情報に対するイメージ

本調査では、避難情報に対するイメージを把握するために、表-3 に示す 5 項目を提示し、それぞれに対して「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」の 7 件法で回答を得た。そして、これらの項目に対する回答を 1~7 点と数値化し、因子分析を行った(表-3)。これより、第 1 因子を『避難情報の取得容易性』、第 2 因子を『避難情報の限界』と解釈した。以下の分析では、この 2 因子の因子得点を避難情報に対するイメー

ジの指標とする。

4. 災害報道内容の記憶と防災意識の関係

(1) 災害報道内容の記憶

本調査では、避難行動および避難情報に関して報道されることが多いと思われる内容として、10 項目を提示し、「何度も見聞きしたことがある」「一度は見聞きしたことがある」「見聞きしたような気がする」「見聞きした記憶はない」の 4 段階で回答を得た。ここで、この回答結果を数値化し、因子分析を行ったが、因子が 1 つしか抽出されなかった。すなわち、避難行動、避難情報に関する報道内容を個々に記憶しているのではなく、災害報道全般を記憶している程度のみが因子として把握された。なお、以下の分析では、避難行動および避難情報のそれぞれに関する報道の記憶が、両者に対するイメージに与える影響を把握するために、表-4 に示す 10 項目を、内容別に『避難情報に関する報道』と『避難行動に関する報道』の 2 つに分類した。そして、回答を 1~4 点と数値化し、分類ごとに回答の平均値をそれぞれ算出し、この値によって、災害報道の記憶程度を高・中・低の 3 段階に分類する。

(2) 災害報道内容の記憶と防災意識の関係

本調査では、防災意識を把握するために、「自分は防災に対して積極的に取り組んでいるほうだ」という設問に対して 7 件法で回答を得た。そして、この回答結果と災害報道内容の記憶程度を分析した結果、両者の間に高い相関関係を確認することはできなかった。すなわち、防災意識が高いほど、災害報道を記憶しているという明確な関係は見られなかった。なお、以下の分析では、防災意識に関する設問の回答結果を、あてはまる側の回答を『防災意識：高』、「どちらともいえない」を『防災意識：中』、あてはまらない側の回答を『防災意識：低』として、3 段階に分類する。

4. 避難行動・避難情報に対するイメージに防災意識・災害報道の記憶が与える影響

防災意識と災害報道の記憶程度が、避難行動および避難情報に対するイメージに与える影響について、2

表-1 調査概要

災害からの避難に関するアンケート	
調査時期	平成28年3月上旬
調査方法	インターネット調査会社(楽天リサーチ)を通じて実施
調査対象	静岡県、愛知県、三重県、和歌山県、徳島県、高知県の沿岸市町村に居住する20~60代のモニター
サンプル数	4,000人

表-2 災害時の行動を12項目因子分析結果

災害時の行動 12項目	第1因子	第2因子	共通性
10. 裏山に亀裂が入ったり、沢が増水したので、避難場所へ移動	.752	.120	.590
6. 河川が増水し、避難勧告などが発表されたので、避難場所へ移動	.658	.149	.455
11. 近所で山が崩れたり、土石流が発生したので、避難場所へ移動	.585	.321	.445
12. 災害の発生によって自宅での生活が困難になってしまい、近所の学校などで生活	.538	.224	.340
9. 洪水が自宅周辺に到達したため、自宅の2階や近所の高層ビルへ移動	.526	.255	.342
5. 大雨が降ってきたので、自主的に避難場所へ移動	.459	.267	.282
3. 地震発生後、津波警報が発表されたことを知り、避難場所へ移動	.458	.105	.221
7. 豪雨によって、自宅周辺のあちこちが浸水し始めたので、浸水する中を避難場所へ移動	.272	.623	.462
8. 洪水が自宅周辺に到達したため、避難場所へ移動	.217	.780	.655
4. 津波が自宅周辺に襲ってきたので、避難場所へ移動	.131	.581	.355
因子寄与率(%)	2.466	1.671	
	.247	.167	

表-3 避難情報に対するイメージ4項目因子分析結果

避難情報に対するイメージ	第1因子	第2因子	共通性
2. 避難情報が発表された場合、そのことをすぐに知ることができる	.934	.149	.895
3. 避難情報が発表された場合、テレビなどで簡単に知ることができる	.770	.238	.649
1. 避難情報は、災害が発生する前に必ず発表される	.737	.168	.572
4. 避難情報が発表された場合でも、災害が発生しないことが多い	.230	.736	.595
5. 避難情報が発表された場合でも、それに従って避難する住民は少ない	.115	.733	.550
因子寄与率(%)	2.075	1.186	
	.415	.237	

表-4 災害報道の内容を10項目内容別分類

分類	内容
分類1	1. 災害が発生したのに、避難勧告が発表されなかった 2. 避難勧告が発表されたのに、災害が発生する前に住民に伝わらなかった 3. 避難勧告が発表されたのに、災害が発生しなかった 4. 避難勧告が発表されたのに、多くの住民は避難しなかった 5. 避難勧告が発表されなかったために、犠牲者がでた
分類2	6. 避難している最中に洪水などに流されてしまい、犠牲者がでた 7. 一人で避難することができない高齢者などが、自宅が浸水したために犠牲となった 8. 災害によって道路が寸断され、山間部の集落が孤立した 9. 浸水した建物の2階などに多くの人が取り残された 10. 災害発生後、自宅で生活できない人が、体育館などで避難生活を過ごした

元配置分散分析を行った。分析結果を表-5に示す。

(1) 避難行動に対するイメージに与える影響

防災意識と避難行動に関する報道記憶別に『安全な避難行動に対するイメージ』、『危険な避難行動に対する危険なイメージ』の因子得点の平均値を図-1に示す。

『安全な避難行動に対するイメージ』については、表-5パターン1より、防災意識と報道記憶の交互作用が統計的に有意であった。また図-1より、防災意識の違いよりも、報道記憶の違いによって、安全な避難行動に対するイメージは影響を受けており、避難行動に関する報道を記憶している人ほど、安全な避難行動をイメージしている傾向にあることが見て取れる。

一方、『危険な避難行動に対するイメージ』については、報道記憶による直接効果のみが有意となった。すなわち、報道意識の違いはイメージの違いに影響していないことが確認された。また、『安全な避難行動に対するイメージ』と比較すると、報道記憶の違いによる差は小さいことが見て取れる。

(2) 避難情報に対する認識への影響

防災意識と避難情報に関する報道記憶別に『避難情報の取得容易性』および『避難情報の限界』の因子得点の平均値を図-2に示す。

表-5 2元配置分散分析結果

パターン	従属変数	固定因子	自由度	F値	有意確率
1	安全な避難行動に対するイメージ	防災意識	2	1.17	.310
		避難行動に関する報道記憶	2	187.85	.000
		防災意識×避難行動に関する報道記憶	4	2.63	.033
2	危険な避難行動に対するイメージ	防災意識	2	2.07	.126
		避難行動に関する報道記憶	2	12.13	.000
		防災意識×避難行動に関する報道記憶	4	0.48	.753
3	避難情報の取得容易性	防災意識	2	85.25	.000
		避難情報に関する報道記憶	2	5.10	.006
		防災意識×避難情報に関する報道記憶	4	1.29	.272
4	避難情報の限界	防災意識	2	5.46	.004
		避難情報に関する報道記憶	2	123.10	.000
		防災意識×避難情報に関する報道記憶	4	2.79	.025

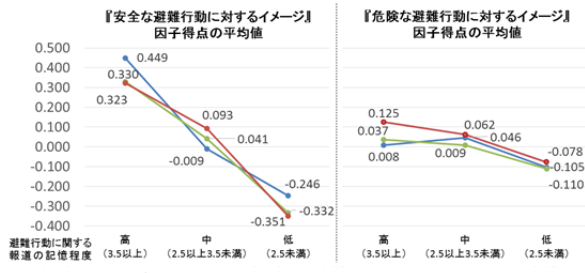


図-1 避難行動に対する認識への影響

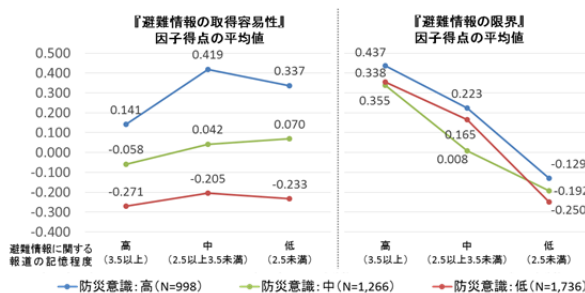


図-2 避難情報に対する認識への影響

『避難情報の取得容易性』については、防災意識、報道記憶ともに直接効果が有意となっており、防災意識が高いほど、また避難情報に関する報道記憶が低いほど、避難情報を容易に取得できるというイメージをもっていることが確認された。また報道記憶の程度の違いよりも、防災意識の違いによるイメージの差が大きくなっている。

一方、『避難情報の限界』については、表-5パターン4より、防災意識と報道記憶の交互作用が有意となった。また図-2より、防災意識の違いよりも、防災記憶の違いによって、避難情報の限界に対するイメージは影響を受けていることが見て取れる。

5. おわりに

本研究では、防災意識および災害報道の記憶程度の違いが、避難行動および避難情報に対するイメージに与える影響について詳細に分析した。その結果、防災意識の違いに関わらず、報道内容の記憶程度の違いによって避難行動や避難情報に対するイメージが形成される可能性を明らかにした。今後は、送り手側は報道が防災への考え方の形成に大きな影響力を持つことを理解した上で報道を行っていく必要がある。

謝辞：本稿は、JSPS 科研費 24760406の助成を受けたものである。ここに記して深謝する。

